

1979. 5. NO. 24

上志村本町1.

入木賢之助方

こばし



いつかある三

いよいよあつた山をんころ

あひふの夏を伝えてんか

二母親には安らかたつた

男らしくんこと父親には

三伝えてんか いとしい妻に

あつたはくはまもまきわけと

四志まにうに俺の終み終ひ

交那の巻山に残るてゝるこ

谷川岳一の倉沢中央稜

△ 1979年6月6日

△ ハ橋秀規・松原妙子

以前から念願だった谷川岳は、機会とパートナーに恵まれ
現実となる。

夕……夜行で入山

合宿帰りで少々疲れぶみのハ橋さんと長岡の駅で合流して
登山センターで仮眠する

夕 軽く朝食をとり 6時頃センターを出発

一ヶ月前、初めて一の倉に来た時は、天気が悪く断念し
ていたのだから今日の六月晴れで顔がついほころんでしま
う。目ざす中央稜は、テールリッジを登りつめた所が
基部で、ヌパーティーが取り付いていたが、登はん具を
付け終る頃より、ハ橋さんトップで行く

フエース、フェムニーと核中部を抜け4ピッチ目から
初めてツルで登り10ピッチ位で衝立の頭に出る。

私の技術未熟と前のパーティーに待たされた為、予時間を
費やしてしまった。

しかし一年目にしてやっとツルベで登れた事で、次回へ
のワンステップになったし、練習を重ねて又一の倉に
行きたいと思う。(記 松原)

大衆山行 白馬岳近辺

実行委員会、結成される

古木、松原、高桑、阿部、近藤、大島、鈴木

予定…… 7月下旬

～ 連休の山行～

▷ 唐松岳 ～ 白馬岳 (54年5月3日～5日)

▷ パートナー: ④ 宮腰 天尾 阿部 (全コース)

③ 清水 丸山 近藤 (3～4日 唐松在頂)

▷ コース及び内容

(5月3日)

A 朝4:00 家を出る。新井のナカス前で、宮腰さんの車を待つ事になった。に、現実が厳しい。いろいろなアクシデントが五、六、言田を出發したのが、5:30分頃。

ターミナルに7:30頃着く。9:00出発。コープウェイ、リフトを乗り、八ヶ岳山荘に9:25に着く。そこで20分位身体を休め、やして、道中いろいろなことを話し合いながら、春山を登る。

途中、アワック隊長の宮腰さんが、女性4人にアワック!? 勝手に自分達で「フィアンセ」と名づけて、一緒に山に登ったような感じかしたかしないか、定かでない。

山荘へ13:10に着く。すぐにエスパーを2つ残り、中で1時間くらい昼寝をする。夕食を載せて、いつものように、ウドンスキヤキ、酒、オールドではなく、レッド。ファイア騒いで8:00頃シュラフに入る。

(5月4日)

3:00起床。朝食をそろそろモチャーン。エスパーをたまたみ、6:00出発。ここで、④、③を分れる。

唐松岳に登り、不帰の峰をゆくり、ゆくり下りアロー。天尾さん、少しビビったみたい。天狗岳に10:45分到着。そこで30分くらい休み。ここではアローイバートの頂上を少しとる。

鐘巻山の合岐点には12:05に着く。13:00まで大体止、昼食をとる。

食事したせいで元氣百倍、鐘の頂上へ登ると白馬が見えた。ここでまた休み。白馬が見えたということで、40分くらい身体をいやす。

ここで休んだことにより、後玉とまで書いた。結局、白馬に着いたのが 4:05分頃。天気予報を聞いて、私と吉崎さんとで、雨のときは傘までピーと着ることに。うらやまの行きたらと。ピーと欲しかったものを盛り。

結局、エスパーを落としたのが原因で、中の入り口が壊れて。紙立だけ、外から入れられ、中は紙立が壊れた。雨でシートを空け、天候がよくなるまで待つ。

(5月5日)

3:30分起床。7:00起床。予定を変更して、大宮まで行く。10:15分鎌倉に着く。11:40分発、大宮に乗り、又、大宮から手で行く。

帰りのコースは戸巻で昼食をというところだったが、戸巻はくと申で止まらなくて、昼食をというところはない。結局、3:30分頃、大宮で昼食をとる。

最後に、カマを切って、山から下りてくると、カマが壊れてしまったことは、山から下りてくるとカマが壊れてしまったこととみる。

宛：阿部

尾瀬ハイクのお知らせ

- ・予定日 6月9日(土)~10日(日)
- ・参加人数 20名位
- ・コース 沼田～大清水～二平原～尾瀬沼
- ・経費 約 10,000円 (往復)✓
- ・宿泊 法
- ・公共交通 電車
- ・帰 来) 直に車 19:00 各駅

★ 6/6(水) 高陽会館にて打ち合わせ会

会員以外の方もぜひどうぞ!

PM 6:30 ~

————— 3 —————

5月連休合宿報告

不帰Ⅲ峰～明星山～島道鉦泉

5月1日～5日

八橋 鈴木 杉本

1日 早朝の急行越前で糸魚川入。そこから鈍行で白馬に差く。ここで八橋氏の東京時代の友人ミホに合う。彼らはⅢ峰へ行くとのことなので同行する。

1番のケープルに乗り、リフトを乗り継いで黒菱平。天候はあまりよくない。丸山ケルンの手前で到着。我々は、今日は丸山泊まり。風が強くな。た中で設営。長い午後だった。

2日 少し寒過ぎた。Ⅲ峰A尾根へむかう。取付きまで。新雪の積った沢を下る。尾根末端で休憩。

左から巻いて取付へ。**1P** フッシュ混じりの雪面。**2P** 雪のつまった急なルンゼ。抜け尺所のハイマツでヒレイ。**3P** 雪面を右から回り込んで雪校へ。B尾根に3パーティ、Ⅲ峰の仲間も見える。数P交互に登り。**11P** 目を終って空腹に腹をかいてパンを喰う。**12P** 小岩校に登り、雪壁をつめ、フッシュで確保。**13P** フッシュ帯のルンゼ状の所から雪壁に登り、岩校下につく。**14P** ヤマハンクまみの壁を八橋氏、空身で苦勞して抜ける。杉本アブミを使用し続く。思わぬ人工登攀に出会った。**15P** 右からトラバースし、左上して尾根上に出る。**16P** そのまま雪校を進むと再び岩。人工約10m。**17P** ハイマツ帯を登ると、接続。B尾根。C尾根の方が早く終了したようだ。トレールもなく杖より登攀だった。

鷹松岳へ登山切って重い足とりで登る。山荘に寄って高いカンロールを2本つつ買う。テントにもどってからの夜のつまみだったこと。

BC(6:30)→取付(8:30)→終了(14:30)→BC(16:00)

3日 鈴木氏の到着と待って行動しようということ朝霧。

9時過ぎ、朝食を取っていると「八橋」の声。顔を出すと、別の仲間達。五峰へ行、たが2Pで退却とのこと。しばらくして降りの雪洞の住人が帰ってきた。やはり五峰で4P目で15の程落ちて退却してきたという。気勢をよがせる。

昼少し前に鈴木氏到着。予定の五峰はせめて、五峰E尾根に行くことにする。

昨日よりも少し上から下るが、結局同じ所へ出て、E尾根末峰までつめ、A B 中間頂を少し登ってから取付く。昨日のトレールが残っており、鈴木をトップに八橋と杉本が同時に登る。全体が雪壁と雪稜の連続で、「ここが核心部」という所もなく、稜線に出てしまった。剣岳がそばにいた。またまた山荘でカンヒールを置込み、旋走パーティに交じり、B, Cにもとる。該雪壁を3人分に分け、テントを張り分らす。

夕食をたべながら明日は下山と決める。

B(C) → 取付() → 終了() → B(C)

4日 作っくと朝食をとっていると、隣人も下山の様子らしい。はるか岩峰から5万円もかけてきたのだそうだ。明星山へ誘う。おかしなめざりおしせた。清水パーティ3人が下山していった。

晴天の中を下山し、鈴木氏の率に5人東って平岩へと引きぐ。タルマ岩を見学して、明星南壁へ。テントの置忘れに気付く。

水が多く渡渉できず、送水管を渡り、高巻く。左岩稜へ。八橋トップで鈴木、杉本が続く。後のパーティは、八木-工藤。午後の陽さしをあげながら、焼いた岩壁を八橋、軽快に登っていく。逆光の中のシルエットが美しい。硬い岩に冬用の靴がめいそうだ。

終了点から少し登り、Eにまわって下る。再び送水管を渡る。

鈴木、八橋が置忘れたテントを取りに行、たがなかった。そこで、島道越えに行くことに決める。

八木、工藤の両氏は、室崎登攀具梁部の所属。残雪の北アルプスの魅力に引かれてやってきた。明星南壁登攀を誓っていた。道中でカニを買い込み、酒も積んで島道松原に着く。さっそく歓迎の宴会。ほどよく酔って一風呂あびて、久しぶりにふとんにくるまって寝る。

取付()→終了()

5日 さぬやかな朝だった。軽く朝食をすませ、太子堂へ向う。砂防ダムができて大きな池ができていた。様子がだいぶ変わっている。中央ルートを朝陽をあびながら軽快に登って降りてきた。

車で、八木、工藤の両氏を糸魚川駅まで送る。大変感激していた。再会を楽しみにして別れる。

議評 今回の我々の行動は、不帰から兵道へと大胆に飛躍した。北アルプスの残雪は、暖冬だった割には多く、Ⅱ峰の困難さを大きくしていた。目的のⅡ峰はあらかじめ登らなかつたが、Ⅲ峰の2つの尾根を登ることができた。明星山へ転進したのは、Ⅱ峰が登れない状態では必死を得ないことだった。ただ、合宿の継続ということではなく、Ⅲ峰B尾根で一拒合宿は打ち切ってしまった方が良かったように思う。少なくとも意識の上では。

たまたま降りに誤って室崎県の2人と親しくする機会ができた。山は友人を作るに最もよい所だと思った。ついさっきまでは見ず知らずの5人が同じ車に乗り、同じ壁を連らなつて撃ち、そして酒をくみかめす。何とすはらしいことではないか。人間のまじわり、だから登山は止められないのだ。

<おまげ>

2日のピッチ数 11P~17Pは、7P~13Pの誤りです、訂正して下さい。

不帰三峰A尾根

